

平成28年度 学校評価の概要

1 学校評価の方法

今年度は、中間評価（7月）と最終評価（1月）の2回、学校評価を行う。

学校評価委員会で評価項目と質問事項等を検討し職員会議で職員に周知を図った後、アンケート用紙を職員に配付し。回答を集約・分析して達成度を自己評価をする。また、具体的な課題・改善策等を記入する自由記述欄を設けた。

さらに、保護者アンケートを行い、職員による自己評価の参考とするとともに、「意見・要望」を記入する自由記述欄を設け保護者の意見・要望等を把握する。

2 学校評価の集計・分析方法

- (1) 学校経営の努力点をもとに設定した各質問事項の達成度評価に、以下の配点をして平均点及び評価ごとの割合を算出した。なお平均点の算出に当たっては、質問事項ごとの有効回答者数で計算した（保護者も同様の方法で算出した。（ ）内は保護者の評価観点）。

○十分達成できている（大変よい）	… 4点
○おおむね達成できている（よい）	… 3点
○やや不十分である（やや不十分）	… 2点
○不十分である（不十分である）	… 1点

- (2) 自己評価・保護者アンケートの自由記述欄への記入事項を集約し、評価の参考とした。
(3) 年度末に最終の学校評価を行い、今年度の最終評価、中間評価との比較及び次年度に向けての課題を検討する。

3 学校評価の結果から（別紙「集計結果」等参照）

- (1) アンケートの回収率は以下のとおりである。

職員	中間	100.0%（42人中42人）	保護者	中間	89.4%（38人中34人）
	最終	100.0%（42人中42人）		最終	89.1%（37人中33人）

- (2) 保護者アンケートの平均点はすべて3点以上で、全体的に高い評価をいただいた。
(3) 保護者アンケート（最終評価）において『5（子どもの実態や課題に応じた授業）』で「大変良い」「良い」が97.0%であった。研修で行っている一人一授業公開等の効果がでてきているのではないかと考える。
(4) 保護者アンケート（最終評価）において『16（本校の保護者は、PTAの一員として教育活動に協力していますか）』で「大変よい」の割合が低く、「やや不十分である」が15.2%、「不十分」が3.0%であった。PTA 会員が PTA 活動や教育活動に参加、協力しやすいよう、学校参観日や学校行事の時期や時間帯、方法等を更に工夫していく必要があると考える。
(5) 職員による自己評価で、最終評価の平均点の上昇した主な項目として、『1（小・中・高一貫した教育課程の編成）』、『3（夢の実現を意識した授業づくり）』、『6（交流及び共同学習）』、『10（関係機関との連携、進路情報の提供）』、『16（環境整備や緑化）』、『22（働きやすい職場、業務の効率化）』等であった。
(6) 職員による自己評価で、最終評価の平均点が下降した主な項目は、『11（児童生徒の健康管理・保持増進）』、『12（ヒアリハット事例の共有）』等であった。
(7) ほとんどの項目で中間・最終の平均点は上がる傾向にあった。多くの項目で、中間評価を受けた取組が有効であったと評価できる。

また、それと同時に、保護者の評価も高い傾向にあることから、学校の取組が、保護者にとってもよい評価となったと考えられる。しかし、保護者、職員共に、自由記述の中にも改善の必要のある項目があることから、課題と改善策などをもとに検証し、今後にかかしていく必要があると考える。